



一 対象 第二学年 三組 三十八名
二 日時 平成 二十九年 六月 十九日(月曜日) 第三校時 十:十五 ~ 十一:〇五

三 場 所 二年三組教室

四 単元名(教材名)

言葉と向き合う「新しい短歌のために」「短歌を味わう」

五 単元について

(1) 教材観

本教材は歌人の馬場あき子著の「新しい短歌のために」と「短歌を味わう」によって構成されている。

「新しい短歌のために」は、日本の伝統的な芸術である短歌の概要を優しい文章で説明しており、気軽に短歌に触れることができる。本文に登場する短歌について述べられた筆者の感想などを読み取ることで、短歌に親しむことができる。

「短歌を味わう」は、解説文はなく短歌が紹介されており、生徒が自由に短歌を鑑賞することができる。短歌独特の言い回しに触れ、様々な表現を味わうことよって言葉の広がりを感じられる。

本教材で学んだ表現技法を活用し、生徒たちに短歌を創作させることによって、さらに短歌に親しみ、生徒たちの表現する力を養うことができる。

(2) 生徒観

全体的に活気ある生徒が多い。教員の問いかけにも積極的に反応するが、私語も多く、話が逸れることが度々ある。授業の進行が滞ることの無いよう軌道修正することが必要である。

生徒同士打ち解けており、班活動もスムーズに行うことができると予想される。やや消極的な生徒も積極的な生徒の働きかけで班活動に参加できると考えられる。班活動の際も、話が逸れることの無いよう机間巡視、声掛けが重要である。

創作においては、学校行事などの折に触れて一行詩(五・七・五)などの創作を行っており、あまり抵抗なく取り組むことができると考えられる。

指示を聞き漏らす生徒が多く、指示を出す際は注目するよう促したり、繰り返し指示を出したりする等、注意が必要である。

(3) 指導観

・短歌のリズムに親しむように何度も音読を行う。

・短歌独特の言い回しに触れ、言葉の持つ多様性や表現の広がり味わわせる。

・「新しい短歌のために」で述べられている、各歌に対して筆者が感じたことを読み取ることや気軽に短歌を味わわせる。

・句切れ、表現技法を学び、短歌の描く情景や想いを読み取らせる。またそれを用い短歌を創作し表現する力を養う。

六 単元の目標

・筆者のものの見かたや表現のしかたなどを読み味わい、短歌の世界に親しむ

・表現を味わい、言葉の世界を広げる

・自分の感じたことを表現する力を養う

七 単元の評価規準

言語知識・理解・技能	書く能力	読む能力	話す・聞く能力	国語への関心・意欲・態度
<p>短歌の形式や表現技法について理解をする。 新出漢字を習得できている。</p>	<p>自分の想いを短歌で表現できる。</p>	<p>短歌に詠まれた情景や詠み手の想いを読み取る。</p>	<p>自分の作品とそこに込めた自分の想いについて説明できる。 お互いの作品を読みあい、吟味する。</p>	<p>本文、短歌の音読に積極的に参加している。 短歌創作に積極的に参加している。</p>

八 単元の指導計画

(単元目標を達成するための指導計画を示す。)

時	学習活動	指導上の留意点	評価基準 (評価の観点)
一	「新しい短歌のために」 本文の音読 短歌についての基礎知識を学ぶ。	短歌のリズムを意識して音読 するよう指示する。	音読に積極的に参加している か 短歌の基礎知識(句切れ・表現 技法)を理解しているか
二	「新しい短歌のために」 短歌音読、鑑賞。	短歌のリズムを意識して音読 するよう指示する。 短歌が描く情景をイメージさ せる。	音読に積極的に参加している か 前回学んだ基礎知識が定着し ているか。
三	「短歌を味わう」 短歌音読、鑑賞	短歌が描く情景をイメージさ せる。 短歌のリズムを意識して音読 するよう指示する。	音読に積極的に参加している か 短歌の基礎知識が定着してい るか
四	オリジナル短歌創作	学んだ表現技法を使うよう促 す。	表現技法が使えているか。 自分の想いが表現されている か。

九 本時案(第四時)

- (1) 本時の目標
- ・オリジナル短歌を作ろう
- (2) 本時の展開

まとめ2分	展開40分	導入②3分	導入①5分	時
<p>今回学んだこと</p>	<p>短歌創作。 ・下の句づくり(五分) 「今いちばん行きたいところを言つてらん」(俵万智)とれたての短歌です』よりの後に下の句を付ける。 ・下の句づくり発表会。 班で話し合い「ベスト七・七」(読み手の心を動かす下の句)を選出(十分)、配布された画用紙に記入、掲示して発表。 出来上がった短歌と描いた想いや情景を発表する。(五分) ・短歌創作。 五、七、五、七、七をすべて作る。プリントに作った短歌と描いた情景や想いを書いて提出(二十分)。 短歌は「恋の歌」「学校の歌」「日常の歌」「職業体験の歌」の四部門のうち一つを選んで作る。</p>	<p>基礎知識のおさらい。</p>	<p>漢字テスト</p>	<p>学習活動</p>
<p>学んだ表現技法で日常を表現してみよう促す。何気ない日常が短歌になることを感じ取らせる。</p>	<p>実習生の手本を提示する。(詠んだ心情等も示す。) 机間巡視を行い生徒の補助や声掛けを行う。 元の短歌を提示し、実は恋の歌であったと示す。 創作する短歌は「恋の歌」「学校の歌」「日常の歌」「職業体験の歌」から一つテーマを決めるよう指示し、創作した短歌を文集にすることを伝える。 実習生の手本と「与謝野晶子短歌文学賞」の紹介を行う。 表現技法を意識するよう促す。 机間巡視を行い、生徒の補助や声掛けを行う。 提出された短歌は文集にし、プリントは後日コメントを書いて返却(誤字以外の添削は行わない) 文集の内容 ・各学級の「ベスト七・七」(下の句づくりで作成) ・恋の歌部門、学校の歌部門、日常の歌部門、職業体験の歌部門</p>	<p>前回よりもテンポよく回答するよう促す。</p>	<p>「とめ・はね・はらい」に注意して丁寧な字で書くよう促す。</p>	<p>指導上の留意点</p>
	<p>自分の想いを表現した短歌が作れているか。</p>	<p>基礎知識が定着しているか。</p>	<p>正しく丁寧に漢字が書けているか。</p>	<p>評価基準 (評価の観点)</p>

十 板書計画

6/19 〈32〉 オリジナル短歌

★下の句づくり

例

今いちばん 行きたいところを 言ってごらん

夢の詰まった ブロードウェイ

①

②

③

④

⑤

⑥

今いちばん 行きたいところを 言ってごらん

行きたいところは あなたのところ

短歌創作

例

右左 電車に揺られて よろよると 授業に部活 左へ右へ

十一 準備物

教師… 掲示物、短冊、マジックペン、プリント

生徒… 筆記用具、教科書、プリント

【高評価欄】